こだまスイカハウスを利用した冬どりレタス新産地の育成

当管内において、こだまスイカのハウスを利用したレタス栽培が始まったのは平成15年頃で、平成19年には生産者17名によりＪＡ北つくば東部レタス部会が結成されました。県西農林事務所経営・普及部門では関係機関との連携を図りながら、こだまスイカ経営の中に新規品目としてレタスを導入した経営改善や実需者ニーズに即した高品質レタス生産の技術確立に向けて支援してきました。その結果、現在は栽培面積10ha、販売額約８千万円のハウス冬どりレタス（12月～３月収穫）の新産地が形成されています。

ハウス冬どりレタスの定着

レタス栽培農家を大・中・小規模に区分して個別経営を調査分析し、レタス導入のメリットを明確にしました。また土壌微生物多様性調査（土壌微生物の種類と数）を実施し、レタスが輪作品目として土づくりの効果が高いことを実証しました。これらのデータに基づき、レタスの導入を推進した結果、本年度は新たに28名がレタスを導入し、部会員も42名になりました。

間口4.5mのハウスを利用した冬どりレタス

支部別に開催される現地研修会

高品質生産技術の向上にむけて

普及センターは部会と協力し、作型別に品種比較試験を毎年実施し、試験により選定した適品種を部会内で統一しています。毎年新規の加入者が多いので、初心者にもわかりやすいよう、写真を中心に構成した栽培マニュアルを作成し、技術の平準化を図っています。栽培講習会の開催や、育苗期から毎月１回の現地研修会を開催し、部会員間の情報交換の場としています。

実需者ニーズに対応した生産

出荷時期が当産地と競合するのは西南暖地産のレタスです。有利販売に向けて、普及センターは出荷市場３社に対し、当産地への評価調査を毎年行っています。そこで得た産地への提言については、部会役員会で改善策を検討し、部会員全体に実需者ニーズに対応した生産の周知徹底を図っています。近年、市場や量販店からは品質良好との高い評価を頂いています。

共同選果場で厳選されるレタス